

時代のしるし

まず、COVID-19 で苦しんでいるマリアニストの家族に敬意を表したいと思います。感染症の深刻なリスクの下での 2 年間もの長期にわたる試練は、私たちの生活から思考、さらにはそれを疑うことのなかった信仰まで、すべてを揺るがしました。

意思の弱い人は「神がいるのなら、なぜ神は私たちに病気、貧困、混乱などの苦しみを与えるのですか」と尋ねます。

神は「ですから、私はあなたに送りませんでしたか」と答えます。

シャミナード師は「時代のしるし」に敏感でした。私たちの創設者シャミナード師とシスター・アデルは「時代のしるし」に敏感で、神が望んでおられるものを見つけ、必要なものを見つけて取り組むようにと私たちに教えていました。

これこそ、私たちがメアリーの宣教師として行うべき使命です。

このしつこい危機的な現状は、私たちを創設者シャミナード師が生きていた時代に連れて行きます。「神は私をどこに送ろうとなさるのか。私が役に立つところなどあるのですか」「障害ばかりだと言って、落胆しないでください」「痛みも変化もありません。辛抱強くあれば、何でもできます」「素直に考えなさい。神に仕えなさい。他の人に仕えなさい」「困ったときに迷わないでください。神を喜ばせ、平和を守りましょう」

「時代のしるし」を理解していたシャミナード師の方法で人生を送るマリアニストの精神性こそ、この困難な時代に力を発揮する宝石のようなものです。



慶南（クリスティーナ）キム
韓国のソウル MLC 代表者

— 一つにまとまるマリアニスト —
4年目のオープンで魅力的なコミュニティ活動



2020年には長く預かれなかったミサが2021年に再開されました。COVID-19の制限により、マリアニストセンターのスペースには20~30人しか収容できませんでしたが、コミュニティミーティングを通して私たちは活力を取り戻そうとしました。

検疫レベルの制限によりミサだけしか持てませんでした。そして、各コミュニティが毎週行っていた靈的な分かち合いなど以外には、他に何もできませんでした。活動が長い間中断していたので、私たちは激しい活動に対しての渴きを経験しました。各コミュニティは、コミュニケーションの方法を探しました。いくつかのコミュニティは、ビデオ会議アプリやカカオトークなどのアプリを使用したグループチャットを通じて自分たちの考え



を共有し始めました。コミュニティのリーダーと各事務所の3人の責任者が、COVID-19の状況下でコミュニティをどのように導くべきかについて話し合うことができたという事実のおかげで、マリアニスト家族の絆と連帯を感じることができました。一部の地域社会は環境のために独自の活動を行い、一部の地域社会はこの困難な時代を克服するために祈り、一部の地域社会は「時代のしるし」応えて、困っている人々に寄付をしました。



聖母の月である5月に、私たちはこの困難な時期で実現できそうな5つの方法でロザリオ、ろうそく、花を差し上げました。また、平和が脅かされているミャンマーと、COVID-19による深刻なリスクに直面しているインドのマリアニストのために、祈りと支援を捧げました。

ミャンマーへの支援チャネルがないため、イエズス会を通じてヤンゴンとビーゴの家庭に食料品を提供するための資金（約870ドル）を送金し、アメリカのSMを通してインドへの資金（8,000ドル）を送金しました。

「時代のしるし」を理解したシャミナード師の生き方は、私たちが喜びと平和のうちに生きるように導いてくれます。